

寺報

No.638

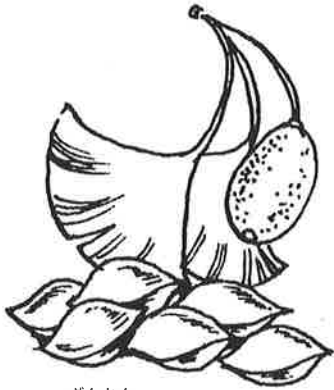
令和2年10月

蓮華寺
行

御聖訓

既に一期、終りになりぬべし。

『八幡宮造営事』



ぎんなん

(解説)

人の寿命は常に定まっているものではなく、我々は皆死というものから逃れる事は、決して出来ません。

これは老若男女、貧富、貴賤、賢愚の区別なく、いずれは死を迎えるのです。

これは日蓮大聖人として例外はなく、この文章のように「ここ数年身体が衰えてきたが、なんとか命を此処までながらえてきた。しかし最近衰えが進みよいよ臨終が近づいてきたようだ。」と述べられています。

大聖人はその為には、皆自分の死について学ぶべきだと教えます。

そうしますと、逆に自分がどう生きていけばいいのかが分かると思います。

人間、一生に一度の人生ならば、一日一日を大事に真剣に生きぬく事が大切です。

日々、神仏に感謝の意を捧げ、法華経・お題目を自分の心の支えとして人生を送るのであれば、悔いのない生き方が出来るのではないのでしょうか。

お会式

十月二十五日(日)

午後一時より



※法要終了後、ご法話あり

昨年好評のお

上人が今回も

お話をします。

*本年は、第七百三十九回目のご法事に当ります。

檀信徒の皆様は、必ずご参拝、ご焼香し、日蓮大聖人様へ御報恩の誠を尽しましょう。

*お経は、『如来神力品第二十一』の中頃「爾の時に佛、上行等の菩薩大衆に告げたまわく」から読みますので、皆様もご一緒にお唱えしましょう。

*先祖・仏様のご供養(諷誦文)と日蓮大聖人御報恩謝徳【各千円・お札付】をお受け致します。

*お供物も受付けています。

*法要終了後の『ご法話』も必ずご聴聞下さい。

日蓮大聖人の御入滅

日蓮大聖人は鎌倉を中心とする布教を続けた結果、数々のご法難を受け最後には佐渡ヶ島まで流されました。

その後、いったんは鎌倉へ戻りましたが、幕府への三度の諫嘆(いさめさとす事)も退けられた為、もはや山林に隠れるべきとし、身延に入山されました。

それから足掛け九年、長年の法戦と受難の末、痛められましたお身体を湯治で癒す事にし、信者の南部氏所有の常陸国(茨城)の温泉へ移動しました。

また、長く訪れていない故郷の父母のお墓にも参拝しようともお考えになりました。

この二つの目的をもって、長く住み慣れました身延山を後にしたのです。

身延山を立たれた大聖人は、途中熱心な信者である池上宗仲の館があります武蔵国(東京)に旅装をお解きになりました。

ところが、ここで急に体調をくずされ、終に自らもここを入滅の地と定め、多くの弟子や信者達を召集させたのでした。

『御会式』に参拝しよう!

『御会式』は毎年執り行います日蓮大聖人のご命日忌法要でありまして、皆様の家庭でいうご法事の事有很好的です。

皆様はご自分の家の法事はしっかり行いますが、その基となります日蓮大聖人のご法事となりますと、法要に参列する方は多いといえません。

しかし、皆様のご先祖や仏様達は、日蓮大聖人の唱えられましたお題目のお力によつて成仏されているという事を決して忘れてはいけません。

もし日蓮大聖人がおいででなかったら、当然お題目を唱える者はいなかったわけですから、ご先祖や仏様も成仏出来ず、また現在皆様をお助けしています御祈祷や靈断やお守りというものも、一切存在しなかったのです。

どうか皆様も、もう一度【御報恩】というものを考えてみてはいかがでしょうか。

ただ仕事や遊びに追われて一生を送るのではなく、少し心にゆとりを持ち、ご報恩感謝の為に法要に参列し

師の病を氣遣つて、池上の館に参集しました人達に、大聖人は最後の説法としまして『立正安国論』を講義されたのでした。

やがて病が重くなりました大聖人は、お弟子の中から日昭・日朗・日興・日向・日頂・日持の六人(六老僧)を選び「本弟子」と定め教団の後を託しました。

また、当時数え十二歳の経一磨(日像)を枕辺に呼びまして帝都(京都)への伝道をゆだねたのでした。

弘安五年(一二八二)十月十三日、臨終の床にありました大聖人は、枕辺に大曼荼羅御本尊を掛けさせ、その前に立像のお釈迦様を安置させました。

やがて一門の弟子や信者が読経する中で、辰の刻(午前八時頃)静かに波瀾に富んだ六十一年のご生涯を終えたのでした。

その時、大聖人のご入滅を悼むかのように、ゆるやかな地震があり、またお弟子の日昭が臨滅度の鐘を打ち鳴らした時には、全山の桜が花を咲かせたと伝えられています。

こうして、池上の館はご入滅の地となり、ここに『本門寺』が創建されたのでした。

日蓮大聖人様にご焼香する事が、日蓮宗檀信徒の本来の姿ではないでしょうか。
この事を踏まえまして、どうかこの大事な『御会式』の法要には、必ず参拝して戴きたいと思ひます。
皆様が法華経・お題目を唱え、心の支えとして一生懸命生き抜く事が、ご先祖や仏様更には日蓮大聖人が一番喜ばれる事なのです。

◎日蓮大聖人

聖語カレンダー

日蓮宗新聞社発行で、縦58センチ横38センチです。一ヶ月で一枚、上半分に大聖人のお言葉とその解説、下半分がカレンダーで、干支・二十八宿・旧暦が書かれ、更に宗門聖日（日蓮宗で重要な日）も出ております。

一部・・・五〇〇円 〔注〕《限定販売》

◎令和三年度「曆」

一部・・・一五〇円 〔注〕《限定販売》

★いずれも十月一日から販売します。

檀信徒研修会のお知らせ

十月十七日（土）

『聖典の読誦と唱題行』

担当・・・住職上人

☆聖典の読誦（三十分）と唱題行（三十五分）

*お題目は七百回以上唱えられます。

時間・・・午後七時より

場所・・・小本堂（イス席です）

持参品・・・聖典（事務所にて）・数珠・団扇太鼓

*月一度の修行ですので、どうか皆様もこの機会を逃さず、お経とお題目を心から唱えましょう。

☆靈断

檀信徒の皆様で、日頃から何か困り事や悩み事がありましたら、迷わずに蓮華寺までご相談下さい。

日蓮宗に伝わる秘法『靈断』にて当山僧侶が解決、ご指導致します。

なお、宗旨宗派は問いません。 ☎776-5840

〔ご相談料は一件につき三、〇〇〇円です〕

『位牌壇』の募集！

◎お寺に『位牌壇』がありますと、毎朝必ずお題目が唱え続けられていきますので、皆様の御先祖や仏様が今後代々に渡り守り続けられていきます。

◎仏様の御命日に当る日に、諸用や旅行などで不在の時でも、ご予約戴ければ『位牌壇』の前に追膳をお上げしますし、またご依頼があればお経も唱えさせて戴きます。

◎特に、青森では冬期間、お墓参りが出来ませんので『位牌壇』がありますと、常にお寺にお参りが出来ます。

◎最近仕事などの関係から、家族が地元に住めずに仏壇を維持出来ない為、『位牌壇』に位牌を預かり青森に帰省した時にお参りをする方達も増えてきていますが、それでも構いません。

◎現在空いています上位の位牌壇に上がりたい方には数がある限り無料でお譲り致しますが、維持費は増額となります。

詳細は事務所まで！

竜ノ口御法難会

十月十三日（火）

午後一時より

於・・・大本堂



*参拝者には全員、オハギをご供養致します。

同じアンコロモチですが、秋はオハギ（お萩）・春はボタモチ（牡丹餅）といわれています。

*お供物も受け付けます。

〔注〕『竜ノ口御法難会』は「十三日講」のお勤めの中で執り行います。

『七五三』のお知らせ

当山では毎年『七五三』の祈祷を行っていますが、青森は十一月ですと雪の心配がありますので、早い月から受付しています。

『七五三』は本来「数え年」で行うものですから、

- ◎七歳・平成二十六年生れの女児
- ◎五歳・平成二十八年生れの男児
- ◎三歳・平成三十年生れの女児

となりますが、ご家庭の事情により「満年令」でも構いませんので、子供さんの幸せと発育を願いまして、日蓮宗のご祈祷をお受け下さい。

なお、子供さんには「鬼子母神木札」「千歳飴」「千支のキーホルダー」「記念写真」を差し上げますのでどうかお早めに、ご予約を戴きますようお願い致します。



『提灯』の募集!

当山で「御会式」「お正月」「鬼子母神大祭」の時に掲揚します『提灯』(トローラー)を募集致します。作成価格は八千円で年間の管理費が二千円となりますので、初年度のみ一万円となります。

『聖徒団会員』募集!

毎月ついたちの「盛運祈願会」の中で、住職が各会員の『家内安全』をご祈願致します。その他、大本堂御寶前のお花、皆様にお配りする聖徒タイムズ・寺報等の援助などに活用します。会費・・・年額二、四〇〇円(月二百円)

『靈神符』を持ちましょう!

最近の思いもよらぬ災難・事件・事故が多発し、特に子供さんが悲惨な事に会われています。皆様も「私は大丈夫」という考えは止めて、素直に毎月のお守り【靈神符】をお持ちになり、身を守つてもう様にしましょう。



十月の行事

一 日(木)盛運祈願会 午後一時より

- ・ 毎月のお守り【靈神符】の交換の日です。
- ・ お勤めに参拝し、お経とお題目を唱えましょう。
- ・ 檀信徒の方は必ずお守りを持ちましょう。



十三日(火)日蓮大聖人様の御回向 午後一時より

- ・ お経 如来神力品第二十一(訓読・日本語読み)
- ・ 如来寿量品第十六(真読・漢字読み)
- ・ 皆様も日蓮大聖人様の御報恩を忘れずに参拝し、一緒にお経・お題目を唱えましょう。

十三日(火)『竜ノ口御法難会』 午後一時より

十七日(土)『檀信徒研修会』 午後七時より

二十五日(日)『御会式』 午後一時より

三十一日(土)『妙見小祭』 朝のお勤め中

☆奉仕のお知らせ

十九日(月)『御会式』花作り・・・午前九時より

- ・ 『御会式』の際、大本堂に飾る桜の花は、毎年教宣部と檀信徒の皆様の奉仕で作られています。どなたでも参加出来ますので、日蓮大聖人様への御報恩の為、よろしくご協力をお願い致します。
- ・ 『御会式』の準備
 - ・ 教宣部男女・・・午前九時より
 - ・ 大本堂の幕、ノボリ、ちょうちん、祭壇等の準備
- ・ 『御会式』のお手伝い
 - ・ 教宣部男女・・・午前十時より
- ・ 『御会式』の後片付け
 - ・ 教宣部男女・・・午前十時より

- ・ 大本堂の幕、ノボリ、ちょうちん、祭壇等の後片付け
- ・ 『御会式』は大行事ですので、準備、後片付け等が大変です。

沢山の方々のご奉仕をよろしくお願い致します。教宣部員以外の檀信徒の方も歓迎致します。

- ◎奉仕部長・山田兼補◎伝道部長・小野正春
- ◎教宣部長・杉淵昌三

御 会 式

*法 要

十月二十五日(日)

午後一時より

※法要終了後・御法話

講 師：日蓮宗靈断師会・指導局講習部長
広島市安佐南区八木

龍華寺住職 大平 貫脩 上人



※檀信徒の皆様は、『御会式』法要には必ず参拝し、
日蓮大聖人様へご報恩のご焼香致しましょう。

※日蓮大聖人様の御報恩謝徳と先祖・仏様のご供養
【諷誦文】(お札付・千円)、お供物等をお受け致します。